

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Roselle Association CLUBⅢ					公表日	令和 7年 2月 14日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		広い訓練室なので確保している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		基準配置2名以上でその他、有資格者の職員も従事している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		一日のスケジュールをホワイトボードに記入し、見通しがたてられるよう工夫している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		業務開始・終了で施設内・外の環境整備を業務の一環で行なっている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		広い訓練室と個別で対応できる相談室があります。	相談室でパーテーションを活用することを検討している。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		朝のブリーフィングでその都度、振り返りを行なっている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		アンケートをもとに業務改善ができるので、とても良い機会だと感じる。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		アンケートをもとに業務改善ができるので、とても良い機会だと感じる。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		第三者委員会は設置していないが、同グループで検討を行い業務改善に繋げている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		新人職員研修や支援向上委員会等の研修を行なっている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		HPにて令和7年2月14日公表予定。県への届出手続き中。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		担当者会議やモニタリング等で情報収集を行い、個別支援計画書の作成を行なっている。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		個別支援計画案をもとに事業所で事前会議を行い、職員の情報も含め統一した支援で行えるよう進めている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		個別支援計画案をもとに事業所で事前会議を行い、職員の情報も含め統一した支援で行えるよう進めている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		5領域の内容に基づき分析しやすくなった。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		移行時に本人が困らないよう情報共有を行なっている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		1日のミーティングで職員全体でプログラムの話し合いを行なっている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		児童からの意見も取り入れ活動が固定化しないように工夫している。	同グループでプログラム内容を提供しあい、良いプログラムがあれば取り入れている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		プログラム時は集団活動がメインだが余暇活動の際、個別で活動できる機会がある。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝のブリーフィングでその都度、話し合いを行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		1日の振り返りを行い、改善点や対応策も口頭だけでなく、記録に残している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援記録と連絡帳を活用し、特記事項は別のフォーマットにて記載し、検証・改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		担当者会議やモニタリング等で情報収集を行い、個別支援計画書の見直しを行なっている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達管理責任者だけの参加ではなく、OT期間中の児童指導員も会議に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保育園からの情報なども共有している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		移行会議や担当者会議で関わる機関が集まり、情報を共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		移行会議や担当者会議で関わる機関が集まり、情報を共有している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6		関係機関との連携を相談支援事業所と協力を得て進めていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域の公園活動で関わる機会がある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に1日1日の状況を報告し、ご家庭での様子も聞く事が出来ている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		様々な機会に提案や支援方法をアドバイスしている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用前契約時に説明を行なっている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングや担当者会議での本人・保護者の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		個別支援計画書に説明日及び同意のサインを頂いている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		モニタリングや担当者会議、送迎時での際、やり取りを行なっている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者会、スポーツフェスティバル、音楽祭で保護者との繋がりがある。	コロナ禍で保護者会が出来ていないので検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		保護者からのご相談・ご要望等はその日で返答し、柔軟に対応できる体制を整えている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		HPや月一回のお便りにて情報を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		利用前契約時に説明を行なっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		伝える際に分かりやすいよう短く説明を行なっている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		コロナ禍で交流が減ったので再度検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルを作成し職員で共有している。年2回の訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを作成し職員で共有している。年2回の訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		アセスメントを取る際の項目でアレルギーの確認を行なっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギー一覧を作成し、医師の指示のもと行なっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、訓練を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		緊急連絡先一覧表を作成している。	災害時での連絡が取れない際の避難場所を説明を行なっていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット発生時に事故に繋がらないよう話し合いを行なっている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年2回以上虐待防止・身体拘束適正化での委員会、勉強会を行なっている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束に関するマニュアルのもと同意書等のフォーマットは準備している。該当児童なし	